

計画実施まで

砂漠の川を下る——この計画は4年前の88年の夏、私（山田：当時2年生）が下宿でなにげなく見ていた世界地図からひらめいたものだった。場所は中国新疆ウイグル自治区のタクラマカン砂漠、その砂漠の北側を東西に縦断するタリム川に着目した。この川を1本の道とみなしてカヌーで航行すれば、タクラマカン砂漠を縦断できるのではないか、ラクダでこの砂漠を縦断したというのはよく聞く話だが、カヌーで縦断するというのは、ひょっとしたら世界初なのではないか、と考えたのである。実際、100年前、スウェーデンの探検家スウェン・ヘディンが途中で断念したコースであり、成功すれば世界初の快挙となるのである。

その年の11月、部内に1990年実施予定として、「タクラマカン砂漠縦断カヌー航行計画案」を提出。以降、情報収集活動に入った。

翌89年7月には、タリム川の偵察を実行。その後の活動は、カナディアン・カヌーを使っの長距離航行トレーニング、中国側との河川航行許可と契約費用に関する交渉に移った。その中で、最大の難関は中国側に支払う契約費をいかに減らし、かつ総費用を工面するかであった。この問題は私達の認識の甘さ（費用の工面を全面的に企業等の寄付金に頼ろうとしたこと）もあって、計画実行予定の90年夏までに解決することは出来ず、1年延期を余儀なくされた。

延期決定後、私達は強力な支援体制の形成に努めた。秋以降、大学当局（主に学生課）の全面協力が得られ、また12月には探検部OB会が中心になって、派遣委員会が結成された。遠征実現に向けて、物心両面にわたる協力をこうした支援体制の下で得ることができたのだ。

そして、91年7月2日、多くの方々の見送りのなか、大阪空港を出発したのである。